

日時：2022年6月16日（木）12:00～13:00

場所：第3会場 札幌コンベンションセンター 1階 中ホール AB
〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

「自家培養軟骨移植術は膝関節軟骨欠損症に対する第一選択になり得るか？」

本セミナーは事前登録制です。大会HPから学会参加登録の上、期日までにお申し込みください。

- ・専門医資格継続単位 必須分野：2 外傷性疾患（スポーツ障害を含む） 12 膝・足関節・足疾患
- ・教育研修会スポーツ単位 S

座長

医療法人高遼会
高遼会病院 院長

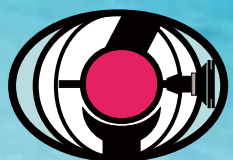
脇谷 滋之 先生

亀田総合病院
スポーツ医学科 部長

演者

加藤 有紀 先生

軟骨損傷の治療戦略では、保存療法を行い、改善しない場合に侵襲の少ないデブリードマンや骨髄刺激法から検討し、軟骨欠損範囲の拡大に伴い骨軟骨柱移植や自家培養軟骨移植が検討される。Brittbergらによって報告された第1世代のACIは、細胞懸濁液を注入して自家骨膜で被覆するものであったが、現在では骨膜からコラーゲン膜に移行し、本邦で保険適応となっているJACCはアテロコラーゲンで3次元培養された軟骨シートとなり、進化がみられている。当院を含む千葉県内の主要病院でACIに関する多施設共同研究が行われている。我々の症例においてもACIの治療成績が出揃ってきた。自家培養軟骨移植は、信頼に足る安定した治療オプションであると考え。今後、ACIは本邦におけるfirst lineとしての治療オプションとなり得る。当院における100例を超えるACI治療経験とともに、多施設共同研究によって得た知見および新しい治療オプションの可能性について報告する。



現地開催に加えオンデマンド配信を行います。
詳細は大会HPをご確認ください。

共催：JOSKAS/JOSSM 2022

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング